

## 令和元年度 学校運営協議会（第2回）議事録（HP用）

- 1 日 時 令和元年 11 月 26 日（火） 14：15～15：30
- 2 場 所 本校 会議室
- 3 参加者 協議会委員：保護者、地域住民。学識経験者等 5 名  
本校教職員：校長、教頭、事務長、首席（兼教務部主任、第 2 学年主任）  
保健主事、生徒会部主任、

### 4 内 容

- (1) 委員長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 第 1 回議事内容確認
- (4) 議 事

#### ◆ 令和元年度 授業アンケート

- ・ 第 1 回は 5 月 24 日、第 2 回は修学旅行の関係で第 2 学年は 10 月 10 日、第 1・3 学年は 18 日に実施した。
- ・ 授業の形態によって座学と実技で分けて質問内容を設定し、4 段階で評価を行う。
- ・ 今年度の授業の様子として、昨年度から教員間での授業見学を積極的に行い授業改善に取り組んできた。初任者を含め ICT 機器はどの教員も特に抵抗なく活用しており、授業中でのペアワーク・グループワークも必要に応じて適宜取り入れる教員が増えているように思われる。
- ・ 年度別比較データについて  
昨年度と比較して第 1 学年・第 3 学年はほぼすべての項目で値が上昇している。第 2 学年はほとんどの項目で低下している。第 2 学年にあたる 4 3 期生はアンケートについて低い値になる傾向があり、こちらに対する期待が高いように思われる。
- ・ 教科別比較データについて  
例年、2 回目の結果が低下する傾向にあったが、今年度は各教科で上昇する質問項目が増えた。一方で生徒自身の取り組みについての質問については低下した教科が多く、学習活動において生徒の自主的な取り組みの促進が今後の課題であると数値から伺える。
- ・ 学年別比較データについて  
第 1 学年は第 2 回の値がすべての項目で低下している。第 2 学年では上昇した項目が多くみられる。
- ・ 第 1 回、第 2 回の結果をもって、各教科で分析を行い、今後の改善点について次回示す予定である。

#### ◆ 令和元年度 学校教育自己診断

- ・生徒（長欠者を除く）、教職員は 100%の回収率、保護者は 90%近い回収率であり、保護者の学校に対する関心が高いことが伺える。
- ・昨年度の結果と比較をすると全体的に肯定的な回答率が上昇している。昨年度も上昇傾向にあったことから年々上昇している。
- ・生徒の結果として、『授業ではわからないことについて、先生に質問できている。』『少人数によるきめ細やかな指導が行われている。』という項目が上昇し、授業について満足している生徒が増えていることがわかる。
- ・保護者の結果として、概ね上昇傾向にある。特に『子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる先生（教職員）がいる。』『学校は保護者の相談に適切に応じてくれる。』の項目が特に高くなっている。教員の丁寧な保護者対応が結果として表れていると思われる。
- ・教職員の結果として、  
新教育課程の策定に向けて、早めの取り組みを行うことができていることが結果から伺える。  
一方で、会議における教員間の意思疎通や意見交換についての項目が低下しており、各会議で自身の意見を持ち、しっかり発言していくことの意識付けが必要であると思われる。
- ・結果を将来構想委員会で考察を行い、次回、具体的な考察内容を示す。

#### ◆ 令和二年度 教科書選定

- ・教科書を選定する際の概要、選定経過について報告、各教科での選定理由について確認を行った。
- ・新教育課程に向けて来年度入学生（45期生）から倫理を現代社会に変更した。

#### ◆ その他

##### ○ 体育専門コース野外活動実習

- ・体育専門コースでは、テント設営、飯盒炊爨、キャンプファイヤーなどの野外活動を通して集団行動や自主的行動の訓練を行い、社会性や協調性を育むことを目標に7月末に国立曽爾青少年自然の家で野外活動実習が実施されていた。（写真で様子を説明）
- ・校外での宿泊が伴うことから教員の負担が大きく、天候に大きく左右される面があり、工夫次第では校内でも実施できる内容であったことから、被災地における『避難所としての学校』を想定したプログラムに変更し、これまでの野外活動実習の内容に避難場所としての要素を加え、校内で実施した。
- ・内容としては、インフラが整わない状況を想定してのかまど作り・火おこし・調理実習、避難所として想定される体育館でのテント設営、傷病者に対する救急処置実習、避難場所でのレクリエーションなどを実施した。（写真で様子を説明）
- ・金曜日の授業後から土曜日の午前中で行われ、充実した内容であった。今年度についてしっかり振り返り、来年度はさらに良いものとしたい。

##### ◇ 協議委員からの意見

- ・防災教育として良い取り組みだと思う。校内での実施という点で教員の負担減に繋がっている。
- ・生徒にとっては将来のためになる経験だと思う。他校では見られない先行した取り組みだと思う。
- ・防災をテーマにした取り組みが良い。近年完成する防災センターの活用も取り入れてほしい。

○ 職場環境の現状と課題について

・ 職員構成について

男女比が約 60%、約 40%、平均年齢が 40 代前半で、20 代 30 代で 50%を超える若い人が多い職場となっている。

・ 職員室について

授業内容についての相談、初任者や若手教員への教科内での指導が容易に行うことができることから教科別に配席していたが、学年での情報共有の円滑化、指導を要する生徒への迅速な対応のために学年別への配席に変更した。学年別にするすることで、学年間の指導のブレが生じることが懸念されたが、学校としての指導方針の統一をこれまで以上に図ったことから、そのような問題は起こっていない。また学年間の溝が生じることもなく人員が足りない時などは学年関係なく生徒対応にあたるなど、風通しの良い職員室となっている。

教科別での配席時は赴任してから転勤まで席移動がなかったため、机上に荷物を積み上げる教員が多かったが、学年別に変わり、年 1 回の席移動があるため、机上の積み上げが減り、安全衛生上の面でも効果があった。

・ ハラスメント対応委員会について

管理職を除く男女各 3 名計 6 名で構成。生徒や教職員においてハラスメント事象が起こったときに、丁寧な聞き取りや対応を行う組織として設置している。これまでにハラスメント事象に対応したということはないが、今後もハラスメント事象が起こらないよう、良好な関係性が築くことができるよう各職員心がけていきたい。

◇ 協議委員からの意見

・ 若手の教員が活躍している職場なので素晴らしい。

・ 学校現場において非常勤講師の割合が高いとよく聞くが美原高校の現状はどうか。

→ 6 名の非常勤講師在籍。他校に比べては少ない。

・ 若い教員が生徒への対応において気をつけている点はあるか。

→ 友達感覚にならないよう気をつける。どの教員も同じスタンスで言葉づかいやマナー指導をきっちり行う。

・ 準備室に籠ってしまう教員はいないのか。

→ 本校は職員室の大部屋があるので、他校に比べると職員室にいる教員が多い。

○ 新教育課程の編成について

・ 新学習指導要領が令和 4 年度（47 期入学生）より施行される。

・ 時代の変化や生徒・保護者のニーズを見通し、効果的な学習活動を行うためのカリキュラムマネジメントが必要。

・ 『総合的な探究の時間』の活用・基礎学力の定着・進路に応じた系統的な学習を教育課程編成のコンセプトとする。

・ 第 1 学年の大幅な変更はなく、第 2 学年、第 3 学年では共通履修科目の 22 単位とし、選択科目として 6 単位（3 科目）を設定し、自由に科目を選択するのではなく、習熟度や進路希望に応じて選択科目を指定するようにコース設定を行う。

また、進路変更に対応できるような工夫を取り入れることを検討している。

◇協議委員からの意見

- ・探究活動を行うためには基礎学力が必要不可欠。基礎学力の充実に今後も注力してもらいたい。

◆全体を通して委員からのご意見

- ・取り組みが素晴らしい。生徒保護者の信頼を得られると思う。このような学校の取り組みについて広報活動を通してもっと外に発信してみてもいいでしょうか。
- ・最近の遅刻について状況を教えていただきたい。  
→年間 1000 件を切ることができる数値の推移をしているが、一方で遅刻をしないために欠席してしまう生徒がいる問題がある。
- ・初めてのことに取り組む姿勢が良い。外への情報発信を積極的に行ってほしい。
- ・アンケート結果より、年々上昇している項目があることから、日々丁寧に取り組んでいることがよくわかる。
- ・生徒へのアンケートで学校に行くことが楽しいという項目が年々上昇していることが何よりも素晴らしい。

◆閉会の挨拶（校長）

第3回は2月上旬を予定。